

たたき台

「首里城復興基本計画」に関する
有識者懇談会における
議論結果の報告

令和3年3月●日

首里城復興基本計画に関する有識者懇談会

1. 総括

※はじまりの文章：有識者懇談会の全体議論を踏まえ、作成

※議論を踏まえ追記・修正等する。

※特に重要・留意すべき事項

以下、事務局が、これまでの議論を踏まえて一応の整理を行った。

「◆」は、主な意見の趣旨を整理したもの。

「□」は、直接的な発言はなかったものの、議論内容から趣旨として整理したもの。

(1) 首里城復興基本計画の着実に推進していく仕組みづくり

- ◆ 次期振興計画の最終年度を想定した令和13年を復興基本計画の最終年度としているが、さらに将来に向けて取り組む施策もあるため、超長期的な視点を持ち取り組むべき。
- ◆ 関係各部署の取組を把握し、復興基本計画を着実に推進していく仕組みが必要である。
- 首里城正殿等の一刻も早い復元を願い国内外から寄せられている寄附金に加え、中城御殿跡や円覚寺跡の整備、伝統技術・技能等に係る人材育成など、正殿等の復元以外に係る復興基本計画の取組み全般に活用するための新たな寄附金募集に取り組む必要がある。

(2) 県内各地域及び県民等の参加による首里城復元と首里城復興の機会を各基本施策の取組において創出していく必要がある。

- ◆ 木挽き式などの行事は県民や観光客にも広く見せる復興として県が主体となり取り組むべき。
- ◆ 首里城復元に関連する行催事について、地域文化の伝承やそこに住む人々への誇りにもつなげるよう意識して取り組むべき。北部から木材を運ぶ時には国頭サバクイ、与那国から大龍柱の石材となるニービヌフニを運ぶ時には木遣り（きやり）、再建中には首里の大城（うふぐしく）グェーナなど。

(3) 北殿及び南殿等を含めた首里城公園を一体として捉えた利活用のあり方について、県民等参画の上で検討し、県民視点による首里城公園の運営に取り組んでいく必要がある。

- ◆ 南殿や北殿をどう活用するか、円覚寺や玉陵をどうやって見せていくかについて、県が主体的に取り組むべき。
- ◆ 首里城を中心に円覚寺や中城御殿、玉陵など、琉球王国の歴史文化を体感でき、半日、一日でも過ごせるようハード・ソフト両面の取組が必要である、
- ◆ 復元される首里城は、開かれたものとし、島々、村々の民俗芸能が盛んに行うことができ、各地域の人にとっても新たな文化の発祥の地となるようにすべき。
- ◆ 県営区域及び国営区域が、県民の親しみを持てる場所となるために、柔軟な運用ができる制度が必要である。

(4) 新・首里杜構の下、歴史・文化を体現できる環境（まちなみ）整備を着実に推進していく必要がある。

- ◆ 地域に点在する文化財等はハード整備だけで終わらせず、整備後の活用を見据えた検討をすべき。
- ◆ 中城御殿など、文化財的な拠点をただの点で終わらせないために、拠点と周辺のまちなみを一体的なものとして整備するという考えが必要である。
- ◆ まちづくりは、那覇市が主体となるものの、県も一体となり、また、国や多様な関係者との連携体制を整備して取り組むべき。

(5) 文化財を含む美術工芸品の修復等に係る県内環境の整備に向けた長期的かつ着実に取り組んでいく必要がある。

- ◆ 特に国外に所在する沖縄関連文化財等美術工芸品については、劣化が進んでいるものがあり、放置すれば消失する恐れがあることから、これらの文化財等の修復など、沖縄県が主体となり取り組む必要がある。
- ◆ 保存科学（分析）については、専門的に学ぶ必要があり、その環境整備は容易でないが、文化財等の修復環境を整備し、世界各地にある沖縄関連文化財等美術工芸品は、沖縄で修復していくことを目指し、県は決意を持って取り組むべき。
- ◆ 漆器について、文化財クラスのを修理できる高度な技術を持つ人材は国内でも少ない。県立芸術大学で学んだ後も、さらに相当の期間をかけて、技術・技能を磨いていく必要があり、超長期的視点に基づく計画的な取組が必要である。

**(6) 県内各地に所在する文化財を含む美術工芸品管理のあり方等について、
沖縄県がリーダーシップを発揮して総合的な検討が必要である。**

- ◆ 模造復元品も含めた文化財等美術工芸品を沖縄県が所有して管理の一元化を目指すべきである。
- ◆ 中城御殿跡の整備にあたっては、首里城に関連する美術工芸品等文化財の一括管理、首里城の歴史・文化を掘り下げ、さらなる魅力を発見していく研究的機能も含め検討すべきである。これにあわせて、人材育成に向けた体制整備をすべきである。

2. 基本施策の推進にあたり留意すべき事項

※各基本施策別これまでの主な意見：別紙参照

※これまでの意見及び今回（第3回有識者懇談会）の議論を踏まえ、整理。

※個別基本施策に関して、強調又は特に留意すべき意見等を3～5程度列記。

※議論を踏まえ追記・修正等する。

基本施策1 正殿等の早期復元と復元過程の公開

- ◆ 見せる復興において、文化観光スポーツ部の情報発信の役割は極めて重要。また、那覇市も積極的に関わるべき。
- ◆ 那覇市は尚家から寄贈された貴重な文化財を所有しており、期待される役割が大きいため、那覇市の位置づけを明確にするべき。
- ◆ 施策の方向性に、「将来の改築に向け、植樹、育樹に取り組む」ことを追加すべき。

基本施策2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化

- ◆ 「省人化」という最新技術を活用したシステムも重要だが、最終的にはそれらを使う人の配置や連絡体制の構築など、人間の力が大切であることを踏まえた取組にする必要がある。
- ◆ 日頃の管理体制は指定管理者が行っており「主な関係主体と期待される役割」に記載すべきである。また「訓練」という言葉をしっかり入れ目に見えた取組とすべき。

基本施策3 首里城公園のさらなる魅力の向上

- ◆ 中城御殿跡を整備し、展示収蔵機能を設ける事を、積極的に国に提案すべき。
- ◆ 中城御殿跡の収蔵展示施設には、美ら島財団が持っていた首里城にあった美術工芸品だけではなく、県博が所蔵するものや那覇市が所蔵する尚家の資料等も展示すべきである。
- ◆ 平成や今回の首里城の復元に関連する膨大な資料を1ヶ所で展示する施設が必要である。
- ◆ 観光の面から、首里城や玉陵、復元する中城御殿、円覚寺などの入場券をセットにするなど、一体的な運営の視点が必要。
- ◆ 守礼門や継世門、御内原など、それぞれのストーリーに焦点をあて、観光資源化し的確に発信することで県民の誇りにつなげる視点で取り組む必要がある。

基本施策4 文化財等の保全、復元、収集

- ◆ 被災した漆器類の修復には20年ほどかかるとされ、これに係る人材育成に取り組んでいくため、県立芸術大学には将来を見据えた修復技術を学ぶ環境（専門コースの設置等）を検討していく必要がある。
- ◆ 超長期的な取組として、沖縄関連文化財の修復及び研究を深める体制の整備に関する方向性について、県立芸大と連携して検討していく必要がある。
- ◆ 修復等、首里城復興に関連した取組に関する県立芸術大学の役割等について、専門家等による委員会等を立ち上げ、現状、課題、解決方法等について議論していく必要がある。

基本施策5 伝統技術の活用と継承

- ◆ 技術者の育成、技術の伝承・継承には、組合だけでなく、有機的な、伝統工芸全般にかかる大きな組織が必要ではないか。
- ◆ 戦後、沖縄の工芸を引っ張ってきた職人とこれから次の代を担う職人、両方の世代がいる今だからこそ、沖縄の工芸を一度総括するような展覧会、展示会等を首里城復興のタイミングで行う必要がある。
- ◆ 職人が自身の持つ技術で生計を立てていける状況を作ることが、伝統技術の継承で一番の課題である。

基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

- ◆ 首里杜構想は風景づくりであり100年計画である。超長期的に見据える必要がある。
- ◆ 中城御殿、円覚寺、御茶屋御殿、松崎馬場、中山門、弁ヌ御嶽、伊江殿内庭園などの文化財等については、専門委員会を設置し、本物志向で整備をすべき。また、段階的整備のロードマップを作成すべき。
- ◆ 首里の町の方から首里城へ向かって行く道の歴史的な検証をし、重要な路線について、路面や休憩ができ、回遊性につながる小広場、沿道の石垣や石積み等を整備することが大事。
- ◆ 交通環境の目標水準については、地域で生活されている方や観光交通事業者等と協働で設定すべき。
- ◆ 小型車両による循環があると、観光客も観光拠点を結ぶ足としても使える。その路線に、地域住民の生活の拠点となるような役所や農協があると観光と地域の課題両方が解決できる。

基本施策7 歴史の継承と資産としての活用

- ◆ 継世門は泡盛や琉球料理を味わえる場所に近接しているため、出入口を柔軟に対応し、周遊させることも検討すべき。
- ◆ 首里には泡盛、味噌、紅型など100年以上の歴史を持つ伝統産業があり、これらにスポットをあてた周遊や観光資源の発掘も重要。
- ◆ 首里城、首里城周辺には、32軍壕だけでなく、留魂壕など多くの戦跡があり、これらの活用も検討すべき。
- ◆ 歴史の継承については、教育現場と連携し、首里城を活用することが重要。
- ◆ 職人が自立するためには、ものづくりではない収入源を活用することも重要であり、伝統産業などの観光資源化の観点から異業種との連携が重要である。また、その際は行政の支援が必要である。

基本施策8 琉球文化のルネサンス

- ◆ 芸能と工芸は深く関わっており、協働する部分であり、首里城で演じられる芸能は衣装などに本物志向で取り組むなど県の取組をより具体的に示すべき。
- ◆ 県内外から寄せられた寄附金に対するお礼も兼ねて、県立の琉球芸能の劇団が、県内国内、世界を巡り、琉球文化を発信すべきである。
- ◆ 文化を担う人材の育成にも繋がる取組として、沖縄の伝統工芸品を保有している国内外の美術館等で展覧会を行い、合わせて芸能も披露し琉球文化を発信してほしい。
- ◆ 県芸大を卒業した人材がさらに磨きをかけ沖縄の伝統文化発展継承に貢献できる仕組み作りが必要。
- ◆ 県立博物館・美術館、那覇市歴史博物館、国立劇場おきなわ、浦添美術館など、今ある1つ1つの拠点を結び合わせる仕掛け作りが必要ではないか。

復興基本計画の着実な推進

- ◆ 理念実現のための基礎財源をどうするか、また基金化も必要ではないか。